

令和2年度小松市立串小学校 学校評価1（年度末）

めざす児童生徒像

学校教育目標	〈伝え合い、認め合い、高め合う子の育成〉
1. 伝え合う子	授業や日常生活の中で、自分の思いや考えを持ち、相手に伝えることのできる子→主体性の育成【自立】
2. 認め合う子	相手の思いや考えを共感的に受け止め、相手の良さを見つけることのできる子→安心感のある集団作り【協働】
3. 高め合う子	より良くなるために、互いに気付きを伝え合い、高め合うことのできる子→創造的な集団作り【創造】

※児童生徒達成結果-教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策		
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)						
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒			保護者	※差
(学校で設定)	自己肯定感の向上	各項目を90%以上にする。	① 教師が、日常的に子どもの良さを認め、伝えている。	94.4	82	94.4	-12.4	100	85.2	95.6	-14.8	教員・児童・保護者の3者ともに数値は全ての項目でプラスになり、コロナ禍の状況が続く中、教員・保護者ともに3つの項目について90%以上の結果となった。これまでより教師も良いところを認めようと努め、保護者にも理解してもらうことができた。しかし、教師の思いを児童へ伝えることがまだ、十分とはいえなかった。	学年での行事や日常的な活動の中で、教師が子どもの良さを伝える方法や場の設定をさらに工夫する必要がある。教師からの良いところ見つけや、友達からの温かい言葉を意識して伝えるようにする。学年の成長を伝え、楽しく満足感のある活動ができるだけ工夫する。宝物ファイルの中身が増えてきたが、まとめとしてさらに活用していくようにする。
			② 子どもが達成感を味わうことができる場を設定している。	94.4	91.7	90.5	-2.7	100	94.6	93.3	-5.4		
			③ 宝物ファイルやキャリアパスポートを、計画的に行っている。	100				100					
			集計	96.2	86.8	92.5	-9.3	100	89.9	94.5	-10.1		
重点項目	業務の改善	各項目を90%以上にする。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	72.2				83.3				時間外勤務が80時間を超える職員は減ってきた。組織として、見直しを持って業務を行うことで、超過勤務時間も減少してきた。	業務の平準化と組織としての継続性を保つために、業務内容を見直すとともに、業務を複数人で分担する校務分掌を更に進めていく。
			② 校務分掌表をもとに、業務の平準化に取り組んでいる。	94.1				94.7					
			③ 校内の整理に努め、働きやすい職場となるよう環境改善を進めている。	100				100					
			④ 学年や各部で、見直しを持って計画的に業務を行っている。	94.4				100					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)			達成状況の分析	改善策		
				結果 (%)			結果 (%)						
				教員	児童生徒	保護者	※差	教員	児童生徒			保護者	※差
小松市共通重点項目	学校研究	③と④の割合が90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	100				100			全体研究会やブロック研、計画訪問、学力向上パートナーシップ推進事業などで指導・助言をいただき、研修を深めたことを生かして、学校教育目標や研究主題に向かって、教職員全員で授業改善に取り組むことができた。 全体研究会の度に学んだことを各学年において具体的な目標を持ち、それを教職員全体で共通理解を図ることができ、児童にもそれを示すことで、教員と児童がイメージを共有して授業づくりを行い、効果を上げることができた。 「研究の視点②効果的な解決活動」が研究の重点であり、課題でもあったが、研修を深めていく中でコーディネート力を高めたり、発問を工夫したりすることで向上が見られた。	低・中・高学年部会に分かれて2学期までの成果と課題をあげ、今後の改善策などを話し合った。それを受けて、学校全体としての3学期以降の取り組みについて考察し、全体で共通理解した上で取り組みを進めていく。3学期も、研究の視点②を重点目標とし、さらに教員のコーディネート力を高めていけるようにする。またGIGAスクールとの関連を図り、ICTをより効果的に活用していきたい。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100				100					
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100				100					
			④ 教員一人一人がめざす授業「みんなで聴いてつなげて わかった！できた！」に向けて、くしっこスタイルや語り合い3か条を意識した授業改善を行っている。	100				100					
			集計	100				100					
	指導力の向上	②と③と⑦の児童の割合が80%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	95.2	87.6		-7.6	100	92.4		-7.6	教員・児童どちらのアンケートの結果からも、課題の解決に向けて意欲的に授業に参加しようとしていたことが分かる。 「効果的な解決活動の工夫」とし、図と言葉と式をつないで考えることを教員が意識し、児童と共有することで効果を上げることができた。そのことで、③発表力④記述力について、意識を向上させることができたが、今後も継続的な指導を行う必要がある。また、教員の評価において③発表力と④記述力を比較すると、③発表力よりも④記述力の数値が高い。要因の一つとしては、記述できてはいても、それを全体の前で発表し表現するということが考えられる。 ⑥学びに対する達成感や⑦「わかった」「できた」の実感については、教員は100%であり児童の数値も上がっている。	教員や児童と共通理解したことの実践を積み重ねてきたことで、効果を上げることができた。 今後は、③発表力や④記述力を向上させていきたい。そのために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりや学級経営を行っていききたい。また、「効果的な解決活動の工夫」をすることで、工夫した発表の仕方や記述の仕方を知り、個々が活用できるような力をつけていきたい。 また、今年度の成果を来年度につなげていくためにも、個人思考での思考のアイテムや学習用語の活用の仕方について、学年の系統を意識して指導できるような土台を整えていきたい。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87.5	90.6		3.1	93.8	95.4		1.6		
			③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	87.5	86.5		-1	75	90.5		15.5		
			④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	81.3	91.4		10.1	87.5	92.4		4.9		
			⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	93.8	96.2		2.4	100	96.6		-3.4		
学力調査	算数テストの正答率の平均が85%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	94.4				100				①学力向上に向けて、スキルアップタイムや家庭学習での取り組みなど、改善しながら、担任を中心に全職員で共通理解して実施できた。 ②学校力ロードマップを検証・改善し、活動に取り組み、印刷室に拡大掲示することで常に各自が役割を意識できた。 ③小中連携委員会が、定期的に行われており、学習指導要領の実施や移行期での教育課程や評価、学力調査の結果について情報交換を行うことができた。 ④算数科の単元テストの平均正答率が1・2学期末とも85%となり、授業を中心に、基本的な知識・技能の習得に努めた。	学校力ロードマップにもとづいて学力向上のための実践を行い、検証・改善し、より効果的な取組になるように、全職員で再度、共通理解をする。学力調査に関する分析から見えてきたことを、今後の授業に少しでも生かしていく。 コロナ禍であり、当初の計画を臨機応変に修正したり見直したりしながら、確実に進んでいきたい。 算数科のテストの正答率は、目標に到達はしたが、思考・判断・表現の観点が弱いので、引き続き、授業の中で意識して取り組ませる。	
		② 学校力ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	94.4				100						
		③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	100.0				100						
		④ 算数科の学習において、基本的な知識や技能を習得し、それをもとに思考・表現する力を高めている。	100.0				100						
		集計	97.2				100						
家庭学習	めあての時間、家庭学習に取り組めた児童の割合が80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	100	85.6	71.1	-14.4	87.5	90.4	71.1	2.9	「自分で計画を立てて勉強している」の項目では、児童の意識が高まったが、保護者との結果の差が大きい。児童の自己評価に対して、保護者からはあまり認められていないところは変わらない。「めあての時間、家庭学習に取り組めた」は目標を達成することができ、少し値も上がっている。	家庭学習によく頑張っていた児童が多いので、今後も頑張りを認めていくように心がける。 家庭学習がらばり週間は、3学期も行き、次の学年につなげられるようにする。	
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	92.3				100						
		③ 毎日、めあての時間、家庭学習に取り組んでいる		83	83	0		87	90	-3			
		集計	96.2	84.3	77.1	-11.9	93.8	88.7	80.6	-5.1			

# 令和2年度小松市立串小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間） ○アンケート内容（対象） ◎成果 ★改善点	取組の成果と課題（年度末・3月提出） ○アンケート内容（対象） ◎成果 ★改善点
生徒指導	〈積極的な生徒指導の推進〉	○生徒指導の3機能を生かした授業づくり、学級経営を意識して行うことができた。（教員）AB 100%（A69 B31） ◎生徒指導の3機能をどのような場面で生かすのかを具体的に示したチェックリストを作成して、それを日々の指導に生かすことができるようにしたことが、よい成果につながったと考えられる。 ★児童の実態に合わせ、どのような活動を行っていくことが、生徒指導の3機能を高めていくことに効果的なのかを探り、効果的な取組を全体で共有していく。 ★「宝物ファイル」「キャリアパスポート」「いいところ見つけ」の取組を計画的に行い、児童の自己肯定感が高まるようにしていく。	○生徒指導の3機能を生かした授業づくり、学級経営を意識して行うことができた。（教員）AB 100%（A62 B38） ◎チェックリストを生かすことができたことに加えて、宝物ファイルの計画的な取組や児童間のいいところ見つけの掲示、運営委員会主催の人権集会などもよい成果につながった要因と考えられる。また、授業改善などの学校研究との関連で、授業の中での児童の達成感が自己肯定感の高まりにつながったと考えられる。 ★生徒指導部が中心となって、より具体的な場面でのチェックリストの活用に関する研修を行っていくようにしていくことも必要である。
	・生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした授業づくり、学級経営を意識して行う。そのために、チェックリストを作成し、定期的に検証する。 ・意図的に自己決定の場を設定したり、自己存在感を味わえる活動を取り入れたり、共感的な人間関係が育まれる指導を行ったりする。	○児童の実態把握に努め、支援の必要な児童に対して適切な支援を行った。（教員）AB 100%（A61 B39） ◎特別支援校内委員会や児童理解の会を行い、全職員で児童の情報を共有することができた。県専門相談員派遣事業や小松市教育センター相談事業の活用、スクールカウンセラーや心の相談員との連携により、個に応じた支援を行うことができた。また、学級の状況に応じて、支援員や学習サポーターの配置割りを柔軟に変更し、支援の充実を図った。 ★コロナ禍による児童の不安定さはあまり感じられないが、今後も校内の支援体制の整備・関係機関との連携を丁寧に行っていく。また、問題行動の記録や個人のプロフィール表などを活用して、効果的な支援の在り方を考えていく。	○児童の実態把握に努め、支援の必要な児童に対して適切な支援を行った。（教員）AB 100%（A44 B56） ◎児童理解の会だけでなく、職員打ち合わせの際にも児童に何かあれば報告し、情報を共有することができた。前回に引き続き、外部機関との連携を図っている。それらの情報をもとにして、支援員の配置も変更し多くの目で見えていくことで、児童理解にもつながることができた。 ★担任が作成している本年度の取組を記録として残して来年度につなげていきたい。児童理解のためには多くのデータがあったほうがよいが、活用し切れていないものもあるため、どのデータを使用するかを取捨選択していく必要がある。
特別支援教育	〈個に応じた支援の充実〉	○道徳的価値に迫る発問と構造的な板書の工夫ができた。（教員）AB 100%（A39 B61） ○道徳的価値を価値づける言葉かけを意識することができた。（教員）AB 100%（A39 B61） ◎道徳の校内研修を行い、授業づくりについて共通理解を図ることができた。また、教員同士で教材研究を一緒にしたり、授業の相互参観をしたりする等、お互いに学び合う雰囲気が出た。 ★「考え、議論する道徳」の授業実践に向けて、効果的な発問や板書の工夫について深めていけるように、校内研修の実施及び道徳だよりの発行を計画的に行っていく。	○道徳的価値に迫る発問と構造的な板書の工夫ができた。（教員）AB 100%（A39 B61） ○道徳的価値を価値づける言葉かけを意識することができた。（教員）AB 100%（A23 B77） ◎「授業づくり」についての校内研修を行い、中心発問の考え方や、児童の反応をイメージする大切さを学ぶことができた。また、評価に関する道徳だよりの発行し、評価の視点を意識した授業づくりにつながることができた。 ★板書の工夫を意識することが難しかった。お互いの板書を公開して見合う場面や、学年で一緒に授業づくりをする場面をふやしていくことで、構造的な板書を意識した授業づくりを進めていく。
	・児童の実態（学習面・生活面・友人関係など）の把握に努める。 ・特別支援校内委員会での支援のあり方について話し合い、支援の必要な児童に対して適切な支援を行う。 ・特別支援教育支援員、学習サポーターの効果的な活用を意図的にやっていく。 ・小松市教育センター相談事業、県専門相談員派遣事業の活用やスクールカウンセラーや心の相談員との連携を図り、校内支援体制を整備する。	○学級の読書の時間の活用及びおすすめ10冊・家族読書など、読書の質や量を向上させるための取組を積極的に呼びかけた。（教員）AB 100%（A46 B54） ◎新書を多く購入し、図書だよりにて周知を図ったことにより、児童の図書館利用が積極的になり、意欲的に読書する姿が見られた。また、学級文庫の見直し、「おすすめ10冊」や並行読書用の学年別ワゴンの設置により、いつでも本を手にとれる環境づくりを行うことができた。 ★学級別に週1回、図書室を利用する際に、司書や担任による読み聞かせを行ったり、秋の図書館まつりの充実を図ったりすることで、読書への興味を高め、読書の質の向上に努めていく。	○学級の読書の時間の活用及びおすすめ10冊・家族読書など、読書の質や量を向上させるための取組を積極的に呼びかけた。（教員）AB 100%（A46 B54） ◎コロナ禍で遊びが制限される中、読書を楽しんだ児童が児童アンケートでは95.1%と多かった。また、図書ボランティアさんによる読み聞かせ、職員による読み聞かせ、学習活動の中での並行読書など、自分では手に取らない本にも触れる機会を持つことができた。また、必読「おすすめ10冊」では、司書の読み聞かせや担任の声掛けもあり、達成率が上がった。読書習慣が定着しつつある。 ★自分で手に取る本は、どうしても読みやすいものに偏りやすい。学年にふさわしい本を読む機会を増やし、読書の質や量の向上を図るためには、読み聞かせを含め、様々な取組を行っていく必要がある。
道徳教育	〈考え、議論する道徳の授業実践〉	○早寝・歯磨き・朝ご飯を中心に、健康的な生活を意識している。（教員）AB 92%（A62 B30） （保護者）AB 88.1%（A34.0 B54.1） ○正しい姿勢で学習している。（児童）AB 87.2%（A38.9 B48.3） ◎早寝・歯磨き・朝ごはん週間は毎月実施し、歯みがきについては学年に応じた指導を行い、歯みがきカレンダーと染め出しの取組で家庭との連携を図った。「くしっ子体操」と「体幹トレーニング」を継続し、体幹の強化、正しい姿勢への意識の向上を図ることができた。 ★2学期からは「ラダートレーニング」を取り入れるなど、新たな取組も加え体力向上を図る。また、学級毎に養護教諭による保健指導を行う場を確保し、健康的な生活への意識を高めていく。 ★児童保健委員会の活動を中心とした学校保健委員会を開催し、児童の生活習慣の意識を高めていく。	○早寝・歯磨き・朝ご飯を中心に、健康的な生活を意識している。（教員）AB 100%（A61 B39） （保護者）AB 89%（A37.2 B51.8） ○正しい姿勢で学習している。（児童）AB 85.1%（A37.0 B48.1） ◎学校保健委員会の代わりに、児童会の保健委員会の活動を中心に「ゲーム・インターネットとの上手な付き合い方」をビデオで紹介し、各クラスでネットとの正しい付き合い方について考えた。「くしっ子体操」と「体幹トレーニング」は1学期の取組を継続しつつ、ラダートレーニングを紹介し、休み時間にいつでも誰でも取り組めるよう設定した。 ★取組が制限される中、継続できる取組を充実させ、声かけをしながら、健康的な生活への意識を高めていく。
	・道徳的価値に迫る発問と構造的な板書の工夫を行い、道徳科の授業の充実を図る。 ・児童が道徳的価値を実感を伴って理解できるように、教育活動全体で道徳的価値を価値づける言葉かけを行う。	○情報機器を使うときに、自分や友達の情報を守るよう注意している。（児童）AB97.4%（A80.5 B16.9） ◎個人情報の扱いに関する意識の高まりが見られる。コロナ禍で児童のネットに触れる時間は増大したと思うが、保護者の関わりもよくなったのだと考えられる。 ★ネットワークを通しての友達関係の構築、コミュニケーションの仕方の指導などを発達段階に応じて行う場を設ける。非行・被害防止講座の開催、学校保健委員会との連携、保護者向け資料の配付などを行い、児童や保護者の意識を高めていく。	○情報機器を使うときに、自分や友達の情報を守るよう注意している。（児童）AB99.3%（A91.3 B8.0） ◎個人情報を守るべきものであることを児童は十分に理解できている。ゲーム依存に関わる実践、またはICT指標を基にして学期に1回以上授業の中でICTを活用する実践を行うことができた。 ★GIGAスクール構想の中、一人一台タブレットを授業の中で活用するとともに、今日的課題のネットトラブルを防ぐために具体的な場面を想定した実践を行っていく。また、個人情報に関しても、意図せず漏洩することもあるので、児童の実態に即して指導していく必要がある。
読書教育	〈読書活動の質や量の充実〉	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB89%（A11 B78） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 89.7%（A29.8 B59.9） ◎様々な方法で保護者への情報発信を積極的にに行った。コロナ禍に関する保護者への情報発信はかなり多かったが、大きな混乱もなくスムーズに行うことができた。 ★新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方を招いたり、地域へ児童が直接足を運ぶ活動は制限される状況であるが、地域とのつながりを大切にしながら、地域と連携する新たな教育活動を工夫して実践していく。	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB100%（A6 B94） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 91.6%（A33.7 B57.9） ◎様々な方法で保護者に積極的に情報発信に努めた。特に、メール配信では安全・安心を第一に迅速な情報提供に努めた。 ★「地域に開かれた教育課程」の実現には、地域の資源を活用したカリキュラム作りは必要不可欠であることを再確認し、コロナ禍の中、安全に十分注意した上で必要なことを確実にやっていく。
	・新書を増やし、国語科教科書の巻末図書を揃える等、読書環境を整え、読書の質や量の充実を図る。 ・必読「おすすめ10冊」の取組、図書ボランティアや教員による読み聞かせ、並行読書、図書委員会による図書館まつりの継続等、読書習慣のきっかけ作りを積極的に行い、読書習慣をより定着させる。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A72 B28） ◎新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校中には、教務主任と日程調整を行いながら、多様なテーマの研修会を効率的に実施し、教員の満足度の高い内容の研修にすることができた。6月以降は、短時間の研修を隙間時間に設定する工夫も行い、負担感なく研修を行えた。 ★継続して職員のニーズを把握し、タイムリーな内容の研修を積極的に行っていく。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A62 B38） ◎教務主任と研修時期を相談しながら、学校研究や生徒指導など、幅広い研修を行ってきたことが、教員の満足度の高い校内研修につながったと考えられる。また、職員会議に合わせて出張報告があったり、金沢大学の伊藤准教授を招聘したりして、質の高い研修にもなった。 ★外部人材の活用はまだ難しいため、出張報告も充実させ、さらに満足度の高い校内研修にしていける必要がある。
保健健康教育	〈自分の身体への意識向上と生活改善の推進〉	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB89%（A11 B78） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 89.7%（A29.8 B59.9） ◎様々な方法で保護者への情報発信を積極的にに行った。コロナ禍に関する保護者への情報発信はかなり多かったが、大きな混乱もなくスムーズに行うことができた。 ★新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方を招いたり、地域へ児童が直接足を運ぶ活動は制限される状況であるが、地域とのつながりを大切にしながら、地域と連携する新たな教育活動を工夫して実践していく。	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB100%（A6 B94） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 91.6%（A33.7 B57.9） ◎様々な方法で保護者に積極的に情報発信に努めた。特に、メール配信では安全・安心を第一に迅速な情報提供に努めた。 ★「地域に開かれた教育課程」の実現には、地域の資源を活用したカリキュラム作りは必要不可欠であることを再確認し、コロナ禍の中、安全に十分注意した上で必要なことを確実にやっていく。
	・早寝・歯磨き・朝ごはんを中心に健康的な生活への意識が高まる取組を継続し、望ましい生活習慣の確立をめざす。 ・体力アップ1校1プランの取組を推進することにより、児童の体幹の強化を図り、体力・運動能力の向上をめざす。同時に、正しい姿勢が児童に身に付くように働きかけていく。	○情報機器を使うときに、自分や友達の情報を守るよう注意している。（児童）AB97.4%（A80.5 B16.9） ◎個人情報の扱いに関する意識の高まりが見られる。コロナ禍で児童のネットに触れる時間は増大したと思うが、保護者の関わりもよくなったのだと考えられる。 ★ネットワークを通しての友達関係の構築、コミュニケーションの仕方の指導などを発達段階に応じて行う場を設ける。非行・被害防止講座の開催、学校保健委員会との連携、保護者向け資料の配付などを行い、児童や保護者の意識を高めていく。	○情報機器を使うときに、自分や友達の情報を守るよう注意している。（児童）AB99.3%（A91.3 B8.0） ◎個人情報を守るべきものであることを児童は十分に理解できている。ゲーム依存に関わる実践、またはICT指標を基にして学期に1回以上授業の中でICTを活用する実践を行うことができた。 ★GIGAスクール構想の中、一人一台タブレットを授業の中で活用するとともに、今日的課題のネットトラブルを防ぐために具体的な場面を想定した実践を行っていく。また、個人情報に関しても、意図せず漏洩することもあるので、児童の実態に即して指導していく必要がある。
情報教育	〈ネットトラブルの未然防止〉	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB89%（A11 B78） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 89.7%（A29.8 B59.9） ◎様々な方法で保護者への情報発信を積極的にに行った。コロナ禍に関する保護者への情報発信はかなり多かったが、大きな混乱もなくスムーズに行うことができた。 ★新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方を招いたり、地域へ児童が直接足を運ぶ活動は制限される状況であるが、地域とのつながりを大切にしながら、地域と連携する新たな教育活動を工夫して実践していく。	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB100%（A6 B94） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 91.6%（A33.7 B57.9） ◎様々な方法で保護者に積極的に情報発信に努めた。特に、メール配信では安全・安心を第一に迅速な情報提供に努めた。 ★「地域に開かれた教育課程」の実現には、地域の資源を活用したカリキュラム作りは必要不可欠であることを再確認し、コロナ禍の中、安全に十分注意した上で必要なことを確実にやっていく。
	・情報モラル教育、または教科の中でICTを活用する実践を各学級において1回以上行い、個人情報が出しにくいようにしなければいけないことを理解し、肖像権や著作権などの人権を守り、よりよくコミュニケーションを図っていく力を育成する。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A72 B28） ◎新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校中には、教務主任と日程調整を行いながら、多様なテーマの研修会を効率的に実施し、教員の満足度の高い内容の研修にすることができた。6月以降は、短時間の研修を隙間時間に設定する工夫も行い、負担感なく研修を行えた。 ★継続して職員のニーズを把握し、タイムリーな内容の研修を積極的に行っていく。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A62 B38） ◎教務主任と研修時期を相談しながら、学校研究や生徒指導など、幅広い研修を行ってきたことが、教員の満足度の高い校内研修につながったと考えられる。また、職員会議に合わせて出張報告があったり、金沢大学の伊藤准教授を招聘したりして、質の高い研修にもなった。 ★外部人材の活用はまだ難しいため、出張報告も充実させ、さらに満足度の高い校内研修にしていける必要がある。
家庭・地域社会との連携	〈社会に開かれた教育課程の実現〉	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB89%（A11 B78） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 89.7%（A29.8 B59.9） ◎様々な方法で保護者への情報発信を積極的にに行った。コロナ禍に関する保護者への情報発信はかなり多かったが、大きな混乱もなくスムーズに行うことができた。 ★新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方を招いたり、地域へ児童が直接足を運ぶ活動は制限される状況であるが、地域とのつながりを大切にしながら、地域と連携する新たな教育活動を工夫して実践していく。	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB100%（A6 B94） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 91.6%（A33.7 B57.9） ◎様々な方法で保護者に積極的に情報発信に努めた。特に、メール配信では安全・安心を第一に迅速な情報提供に努めた。 ★「地域に開かれた教育課程」の実現には、地域の資源を活用したカリキュラム作りは必要不可欠であることを再確認し、コロナ禍の中、安全に十分注意した上で必要なことを確実にやっていく。
	・地域人材及び地域教材の活用に努め、家庭や地域との連携を深めていく。 ・学級だより・学年だより・学校だより・HP・学校メール等を通して、学校教育活動の情報を提供し、保護者の学校教育への理解が深まるように配慮する。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A72 B28） ◎新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校中には、教務主任と日程調整を行いながら、多様なテーマの研修会を効率的に実施し、教員の満足度の高い内容の研修にすることができた。6月以降は、短時間の研修を隙間時間に設定する工夫も行い、負担感なく研修を行えた。 ★継続して職員のニーズを把握し、タイムリーな内容の研修を積極的に行っていく。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A62 B38） ◎教務主任と研修時期を相談しながら、学校研究や生徒指導など、幅広い研修を行ってきたことが、教員の満足度の高い校内研修につながったと考えられる。また、職員会議に合わせて出張報告があったり、金沢大学の伊藤准教授を招聘したりして、質の高い研修にもなった。 ★外部人材の活用はまだ難しいため、出張報告も充実させ、さらに満足度の高い校内研修にしていける必要がある。
人材育成	〈人材育成のための校内研修の充実〉	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB89%（A11 B78） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 89.7%（A29.8 B59.9） ◎様々な方法で保護者への情報発信を積極的にに行った。コロナ禍に関する保護者への情報発信はかなり多かったが、大きな混乱もなくスムーズに行うことができた。 ★新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方を招いたり、地域へ児童が直接足を運ぶ活動は制限される状況であるが、地域とのつながりを大切にしながら、地域と連携する新たな教育活動を工夫して実践していく。	○地域人材・地域教材の活用に努めた。（教員）AB100%（A6 B94） ○学級・学校だより・HP・学校メール等で、学校の様子が分かる。（保護者）AB 91.6%（A33.7 B57.9） ◎様々な方法で保護者に積極的に情報発信に努めた。特に、メール配信では安全・安心を第一に迅速な情報提供に努めた。 ★「地域に開かれた教育課程」の実現には、地域の資源を活用したカリキュラム作りは必要不可欠であることを再確認し、コロナ禍の中、安全に十分注意した上で必要なことを確実にやっていく。
	・若手教員のニーズを把握し、必要感のある研修内容を企画し、校内研修会を実施する。 ・ICTや外部人材の効果的な活用を行い、教員として必要な資質・能力が身につく研修会を行う。 ・教員の負担にならないように、開催の時間や場の設定の工夫を行う。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A72 B28） ◎新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校中には、教務主任と日程調整を行いながら、多様なテーマの研修会を効率的に実施し、教員の満足度の高い内容の研修にすることができた。6月以降は、短時間の研修を隙間時間に設定する工夫も行い、負担感なく研修を行えた。 ★継続して職員のニーズを把握し、タイムリーな内容の研修を積極的に行っていく。	○校内研修会は教員として必要な資質、能力が身につく内容となっている。（教員）AB 100%（A62 B38） ◎教務主任と研修時期を相談しながら、学校研究や生徒指導など、幅広い研修を行ってきたことが、教員の満足度の高い校内研修につながったと考えられる。また、職員会議に合わせて出張報告があったり、金沢大学の伊藤准教授を招聘したりして、質の高い研修にもなった。 ★外部人材の活用はまだ難しいため、出張報告も充実させ、さらに満足度の高い校内研修にしていける必要がある。
学校関係者評価	中間	・働き方改革の推進を…先生方の負担が大きいくほど、子どもへの目も届かなくなる。 ・宝物ファイル、1人1台タブレット、外国語等の指導の充実を図っていくと良い。 ・行事が例年並みにできない現状の中で、工夫した取組を行っていると思うが、これからも継続してほしい。 ・自粛に伴う生活リズムの乱れがあるので、改善のための取組を行うと良い。	・働き方改革の推進を…先生方の負担が大きいくほど、子どもへの目も届かなくなる。 ・宝物ファイル、1人1台タブレット、外国語等の指導の充実を図っていくと良い。 ・行事が例年並みにできない現状の中で、工夫した取組を行っていると思うが、これからも継続してほしい。 ・自粛に伴う生活リズムの乱れがあるので、改善のための取組を行うと良い。
	年度末	・アンケート結果は全体としてはとても良好で素晴らしい。その中で、C・D評価をつけた児童一人一人の変容を見取ることが大切である。 ・挨拶が良くなったのは、大変良いことである。すべて挨拶から始める。挨拶が当たり前にできる子になるよう、ぜひ継続してほしい。 ・読書好きな子が増えたことも嬉しいことである。読書を通して、心豊かな子を育成してほしい。 ・ネット依存などネットの悪い部分が心配である。避けては通れないネットとの上手な付き合い方を、しっかりと指導してほしい。 ・一人1台タブレットの良さを生かし、有効な活用法を探りながら授業の中に取り入れていってほしい。	・アンケート結果は全体としてはとても良好で素晴らしい。その中で、C・D評価をつけた児童一人一人の変容を見取ることが大切である。 ・挨拶が良くなったのは、大変良いことである。すべて挨拶から始める。挨拶が当たり前にできる子になるよう、ぜひ継続してほしい。 ・読書好きな子が増えたことも嬉しいことである。読書を通して、心豊かな子を育成してほしい。 ・ネット依存などネットの悪い部分が心配である。避けては通れないネットとの上手な付き合い方を、しっかりと指導してほしい。 ・一人1台タブレットの良さを生かし、有効な活用法を探りながら授業の中に取り入れていってほしい。